

かりほの庵以下同略、秋の田の苧穂の庵の苦をあらみ我衣手は露にぬれつ、高點十二扇略中

御幸 おぐら山の歌なり 點十一扇略中

筑羽根 つくばねの歌也 點十扇

千鳥 あわぢしまかよふちどりの歌也 點九扇

富士 田子の浦の歌也 點八扇

三笠 あまのはらの歌也 點七扇

有明 あさばらけの歌也 點六扇

錦 あらしふくの歌也 點五扇

秋の野 ちらつゆに風のふきしく歌也 點四扇

初霜 心あてにおらばやをらんの歌也 點三扇

松山 ちぎりきなかたみに袖の歌也 點二扇

ちる花 久かたの光りのどけき歌也 點一扇

山嵐 うかりける人をはつ瀬の歌也 過料三扇

雲がくれ めぐりあひてみしやの歌也 同二扇

おく霜 かさ、ぎのわたせるはしの歌也 同一扇

むら雨 むら雨の露もまだひぬの歌也 不中扇

あだ浪 おとにきくたかしがはまの歌也

ゆらの戸 ゆらの戸をわたる舟人の歌也

〔半日閑話 十二〕冬二〇安永の初〇投扇興流行す

〔續史愚抄 後桃園〕安永三年六月十九日辛丑於御前有投扇戲關白内前近衛〇已下上達部權中納言紀

投扇例